

大型デイサービスにおける職員の身体負担について

～ アンケートから見る業務上の身体負担状況 ～

社会福祉法人 サン・ビジョン
大型デイサービスセンター
サンサンリゾートグレイスフル春日井
発表者 理学療法士 梅澤 拓巳

【はじめに】当デイサービスセンターは一日平均の利用者数、149名、平均要介護度1.25（2021年7月末実績）の大型デイサービスセンターである。利用者様の様々なアクティビティや機能訓練を通して利用者様の自立支援を目的とした施設で、業務のどのような場面で身体に負担がかかるかという状況をアンケートにて調査したので、以下に報告する。

【調査方法】デイサービスの業務に携わる職員に対し、アンケート調査を実施した。質問内容は主として年齢、性別、勤務年数、腰痛の有無、腰痛の発生する業務、業務時の身体負担の有無、身体負担部位、日常で気を付けていること、ノーリフトに関する意見（自由記載）である。

さらに、勤続年数が3年以下といった比較的経験年数の短い職員の腰痛や身体負担の状況について注目して調べることにした。

【アンケート結果】アンケート配布は2021年7月中旬に職員83名に対して配布、1週間を回答期間とした。回収率は87%であった。その中で、腰痛保有者は38%。腰痛原因として介護業務由来は28%、介護業務以外は72%。介護業務以外の腰痛原因としては、子育てや以前の仕事で腰痛が発生したという意見が多かった。業務時の腰痛については送迎業務が腰痛保有者の39%を占める。次いで移乗、入浴業務が各21%、デスクワークが14%、その他5%という結果となった。

次に、腰痛に関わらず、日常業務における身体負担の有無については、負担あり42%、負担なしが58%であった。業務負担部位としては複数回答可で、腰部が25件と多く、次いで肩部9件、膝部4件、肘部、手部、頸部、股関節部が各2件の負担ありという結果であった。

勤務年数3年以下の職員は34名、腰痛保有率は44%（勤続4年以上では33%）。その中で、介護業務由来の腰痛は13%である。腰痛業務は送迎業務、入浴業務、デスクワークが同率での回答であった。身体負担の有無では、負担あり38%、負担なし62%、負担部位は複数回答可で腰部11件、肩部3件、股関節部2件、膝部、頸部が各1件という結果となった。

【考察】当施設での腰痛保有者は介護業務以外が大部分を占めた。その理由としては当施設では他デイサービスに比べて平均要介護度が低いため、移乗や入浴の介助量は少なく、介護業務時の腰痛発生は少ないと考えた。しかし、職員が30代、40代が中心の子育て世代が多く、家事や育児といった業務以外での身体負担は高いのではないかとと思われる。

介護由来の腰痛保持者は送迎業務時の負担が多く、運転時の姿勢や乗降が多いこと、利用者様の車いすや歩行車を積み降ろす業務により、腰痛や肩関節痛といった身体負担に大きく関わっていると考える。そして、送迎業務時は時間に制約があることも多く、利用者様へシートベルトを付ける際、限られた車内のスペースで前

かがみ姿勢をとりやすいことや前述の歩行車、車椅子の乗せ降ろし時に力任せで無理な体勢を取りやすくなっていると思われる。

勤続年数3年以下の職員の腰痛保有率は勤続4年以上と比較して10%程度高い結果となり、アンケートでも前かがみ動作や中腰姿勢をとる際に腰痛が発生すると言う意見もあったことから、身体の使い方について知って頂く必要があると考える。

【まとめ】今回、身体負担に関するアンケート調査を行い、想定よりも腰痛保有者や身体負担を感じている職員が多いと感じた。特に送迎業務は多くの職員が携わり、身体負担の大きい業務であることが分かった。また、腰痛原因として介護業務以外での身体負担の割合が多く、業務上の身体負担だけではなく、日常生活における身体負担や身体の使い方に対しても適切な指導を行うことによって負担の軽減ができればと感じた。今後はそうしたことも含めて、ノーリフティングポリシーについての勉強会などを行うことで、身体負担の少ない動作を普及させたいと考える。